

第76期 中間報告書

2022年4月1日 ▶ 2022年9月30日



2020年DLG
金賞受賞

(ドイツ農業協会国際品質競技会)



2022年IFFA
金賞受賞

(ドイツ食肉連盟主催コンテスト)



味わい豊かな内なる「香り」
食欲をそそる外からの「薫り」



株主優待制度

株主の皆様の日頃からのご支援に感謝するとともに、当社株式への投資の魅力を高め、多くの方々へ長期的に当社株式を保有していただき、当社事業に対するご理解をより深めていただくことを目的に、株主優待制度を導入しております。

●対象となる株主様

毎年9月30日現在の株主名簿に記載された、

200株以上保有の方



イメージ

おいしさ、ふれあい。
プフ・リマハム

証券コード: 2281



「目指す姿」を実現していくために ビジネスモデルや企業文化の 改革に挑戦してまいります。

株主の皆様にはますますご清栄のこととお慶び申し上げます。
また、平素より格別のご愛顧を賜り、厚く御礼申し上げます。
ここに、2022年4月1日から2022年9月30日までの
当社グループの経営成績につきましてご報告申し上げます。
今後とも一層のご支援、ご鞭撻を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

2022年12月

代表取締役社長 社長執行役員 **千葉 尚登**

当第2四半期連結累計期間における我が国経済は、新型コロナウイルス感染症に対する日常生活の制約や経済活動への制限が緩和され、旅行や帰省等の国内移動の回復、外国人の入国制限の緩和等により人流が戻り、経済活動の回復が期待されています。飲食業や観光業、又は百貨店等、制限下で非常に苦慮していた業種においては業績が回復する企業もでてきています。個人の家計消費は、娯楽や外食等の支出増加が牽引しております。

一方、世界的な金融引き締めが進む中での日本銀行の金融緩和策継続等による急激な円安、ロシアによるウクライナ侵攻等の影響による原油高等の影響を受け、原材料やエネルギーコストが高騰し、特に国内企業の製造コストが大幅に上昇しており、幅広い業種において値上げが実施されています。消費者物価指数（CPI）が示す通り、国内物価は一定程度を上昇しているものの、品群によっては値上げの反動で、販売数量が減少している製品もありますが、製造コストの上昇をカバーしきれておらず、複数回の値上げを実施する企業も数多く、これに対し個人は買い控え行動

をとる等今後の消費動向は予断を許さない状況となっております。

当業界におきましても、畜肉相場の上昇、飼料価格の更なる高騰、円安の進行による海外からの調達条件の悪化等の影響を受け、製造コストが想定以上に上昇する一方、販売価格は思うように値上げできず、厳しい環境が継続しています。

このような状況の中、当社グループは目指す姿である「おいしさと感動で、食文化と社会に貢献」という基本的な考えのもと、中期経営計画目標の達成に向けて、「ESGへの取り組みと持続可能な基盤の強化」と「既存事業領域の拡大と収益基盤の更なる強化」及び「成長投資とグローバル展開」を基本方針と位置づけ、諸施策を講じてまいりました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の売上高2,117億14百万円（前年同期比0.7%増）となりました。また、利益面におきましては、営業利益54億71百万円（前年同期比34.9%減）、経常利益58億30百万円（前年同期比34.1%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益36億89百万円（前年同期比30.2%減）となりました。

連結業績ハイライト

売上高

2,117億円

(前年同期比0.7%増*)

営業利益

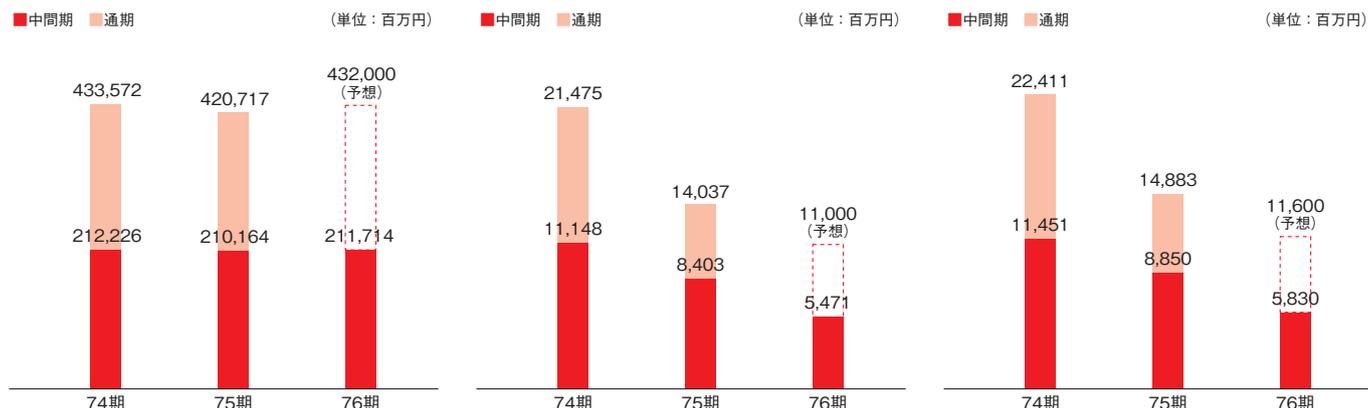
54億円

(前年同期比34.9%減*)

経常利益

58億円

(前年同期比34.1%減)





加工食品事業部門

〈ハム・ソーセージ部門〉2022年2月に価格改定を実施しましたが、9月にも2回目のハム・ソーセージ商品及び加工食品の価格改定を行い、販売先への納品価格の引き上げを実施いたしました。経済活動の回復により市販用から業務用へ需要がシフトしたことで、市販用商品市場の販売額が前年を下回る厳しい環境においても、当社市販用商品は継続的にシェアアップを図りましたが、当初の想定以上に製造コストが上昇したことを受け、収益面では厳しい結果となりました。

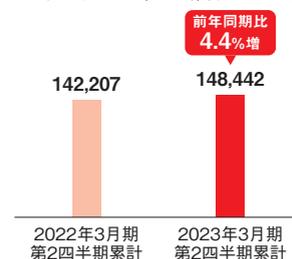
主力ブランドの「香薫[®]あらびきポークウイナー」は、定番の2個束商品に加え大袋ジッパー付き商品も、引き続き好調に推移、また販売促進政策では、香薫発売20周年記念として宝塚歌劇団へのご招待や5月9日香薫の日のイベント、加えてSNSを活用したキャンペーン等を行ってまいりました。世代を問わず幅広い支持を得て、当期も販売シェアの拡大が継続しています。市販用商品全体において市場全体の状況は厳しい中であっても、売上高は前年同期を上回りました。業務用商品においても、市場の回復や新しい商品提案等で、売上は好調に推移しました。

〈加工食品部門〉加工食品部門は、簡便・時短を訴求した「アレンジ食堂」、常温商品の「ストックディッシュ」等の商品が消費者から高い評価を得ており、拡大販売を進めましたが、前年度の反動もあって市販用商品合計の販売数量は前年同期を下回りました。業務用商品においては、市場が全般的に回復した影響により売上は拡大し、加工食品全体としては、売上高は前年同期を上回ったものの、原材料や仕入れコストが大幅に上昇し、利益面では前年同期を下回る結果となりました。

コンビニエンスストア向けのバンダー事業についても、原材料高騰や、燃料高、人件費の上昇等により製造コストが上昇しました。お客様の要望に応えた新商品開発を行いました。利益面においては前年同期を下回る結果となりました。

これらの結果、加工食品事業部門は、売上高1,484億42百万円（前年同期比4.4%増）となり、セグメント利益58億79百万円（前年同期比28.1%減）となりました。

加工食品事業部門(売上高)(単位:百万円)

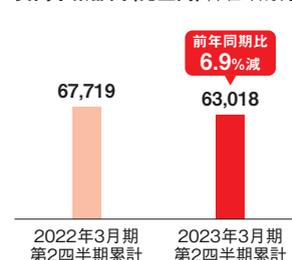


食肉事業部門

海外の畜肉相場高や穀物相場の高止まり、円安による輸入仕入コストの上昇等、食肉事業の仕入環境は極めて厳しいものとなっています。販売先の店頭価格は、原料肉の相場上昇を補うまでの価格上昇には至らず、家計調査をみても、消費者の生鮮肉の購買金額は牛肉を中心に前年から大きく減少しています。販売先への価格転嫁の浸透不足と生鮮肉市場の需要ダウンが重なり、食肉販売の採算が大きく悪化しています。販売数量の維持、利益の確保が難しく、国産の豚肉相場は今年、高い相場価格で推移しているものの、国内の飼料価格高騰には追いつかず、養豚事業も収益的には厳しい状況であります。しかしながら、先を見据えて国産豚肉の先進的生産事業の拡大と農場生産性向上を計画的に推進しております。

これらの結果、食肉事業部門は、売上高630億18百万円（前年同期比6.9%減）となり、セグメント損失1億95百万円（前年同期はセグメント利益9億79百万円）となりました。

食肉事業部門(売上高)(単位:百万円)



親会社株主に帰属する
四半期(当期)純利益

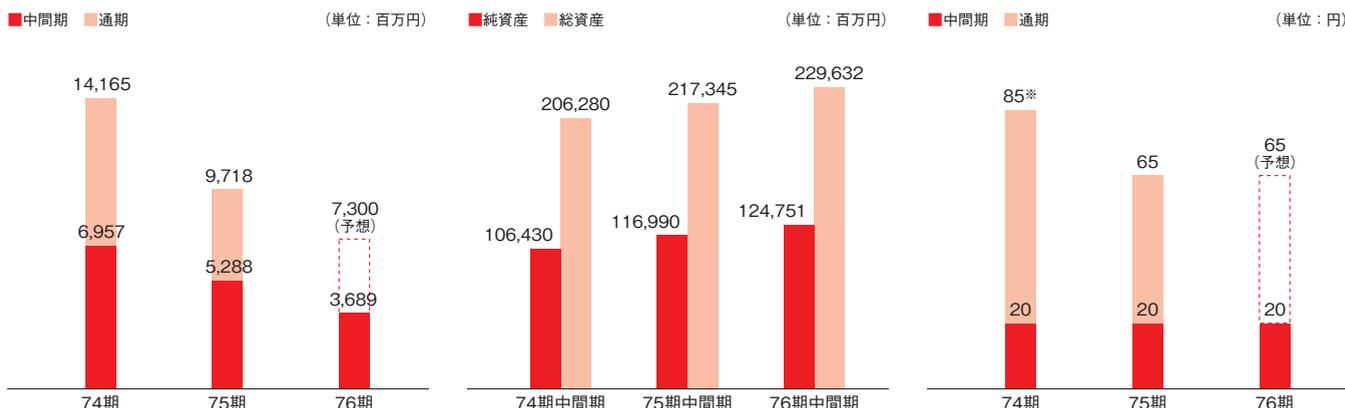
36億円 (前年同期比30.2%減)

純資産／総資産

1,247億円 / 2,296億円
(前年同期比6.6%増) (前年同期比5.7%増)

1株あたり配当金

20.00円



※74期は記念配当20円を含みます。

連結財務諸表



●連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前期末 2022年3月31日	当第2四半期末 2022年9月30日	前期末 2022年3月31日	当第2四半期末 2022年9月30日
資産の部			負債の部	
流動資産	95,828	98,863	流動負債	71,659
現金及び預金	12,556	11,589	支払手形及び買掛金	49,644
受取手形及び売掛金	44,104	44,622	短期借入金	278
商品及び製品	16,796	23,210	1年内返済予定の長期借入金	3,555
仕掛品	3,698	4,319	未払法人税等	745
原材料及び貯蔵品	2,919	3,197	賞与引当金	1,626
預け金	13,028	9,049	その他	15,809
その他	2,727	2,878	固定負債	27,494
貸倒引当金	△2	△2	長期借入金	14,923
固定資産	125,892	130,768	役員株式給付引当金	83
有形固定資産	97,204	100,826	退職給付に係る負債	4,825
建物及び構築物(純額)	47,954	48,486	資産除去債務	401
土地	19,694	19,851	その他	7,261
その他(純額)	29,554	32,488	負債合計	99,154
無形固定資産	4,854	5,928	純資産の部	
投資その他の資産	23,834	24,013	株主資本	102,769
投資有価証券	5,693	5,858	資本金	7,908
退職給付に係る資産	13,078	13,343	資本剰余金	10,185
その他	5,077	4,824	利益剰余金	85,084
貸倒引当金	△14	△13	自己株式	△409
資産合計	221,721	229,632	その他の包括利益累計額	9,090
			その他有価証券評価差額金	2,095
			繰延ヘッジ損益	△5
			土地再評価差額金	4,552
			為替換算調整勘定	468
			退職給付に係る調整累計額	1,979
			非支配株主持分	10,706
			純資産合計	122,567
			負債純資産合計	221,721

●連結損益計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期 自2021年4月1日 至2021年9月30日	当第2四半期 自2022年4月1日 至2022年9月30日
売上高	210,164	211,714
売上原価	182,705	187,128
売上総利益	27,458	24,586
販売費及び一般管理費	19,055	19,114
営業利益	8,403	5,471
営業外収益	583	518
営業外費用	135	159
経常利益	8,850	5,830
特別利益	163	1
特別損失	66	70
税金等調整前四半期純利益	8,947	5,760
法人税等	2,939	1,889
四半期純利益	6,007	3,871
非支配株主に帰属する四半期純利益	718	181
親会社株主に帰属する四半期純利益	5,288	3,689

●連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期 自2021年4月1日 至2021年9月30日	当第2四半期 自2022年4月1日 至2022年9月30日
営業活動による キャッシュ・フロー	8,319	4,961
投資活動による キャッシュ・フロー	△15,784	△5,797
財務活動による キャッシュ・フロー	△5,904	680
現金及び現金同等物に係る 換算差額	△42	24
現金及び現金同等物の 増減額(△は減少)	△13,411	△131
現金及び現金同等物の 期首残高	29,773	16,230
現金及び現金同等物の 四半期末残高	16,361	16,099

Road to SDGs

気候変動問題 私たちにできること

当社グループは気候変動問題を当社グループの事業や戦略に大きな影響を及ぼす重要課題と位置付けています。食品メーカーとして、CO₂排出量削減に向けた再生可能エネルギーへの転換、効率的な商品生産への取り組みをはじめ、養豚におけるメタンガス排出量削減といった新たな課題にも取り組んでいます。

プリマハムグループのマテリアリティ

カテゴリ	重要課題
健康で豊かな食生活を創造する	<ul style="list-style-type: none"> 食の安全・安心の確保 健康に配慮した商品の提案
地球環境の保全に貢献する	<ul style="list-style-type: none"> 温室効果ガス排出量の抑制 廃棄物排出量の削減
サプライチェーン・マネジメントを強化する	<ul style="list-style-type: none"> 持続可能な原材料調達の実現 アニマルウェルフェアへの対応
働きがいのある職場環境をつくる	<ul style="list-style-type: none"> 多様な働き方の尊重、推進 優秀な人材の雇用と育成 心身の健康に配慮した労働安全衛生
経営基盤を強化する	<ul style="list-style-type: none"> コーポレートガバナンスの強化



CO₂排出量
2030年度までに

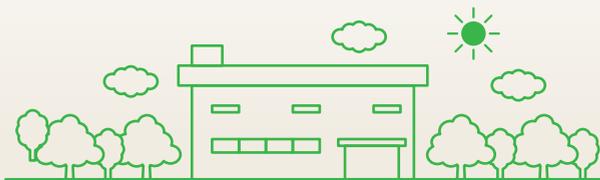
24.3%
削減

2021年度比
※化石燃料由来温暖化ガス
※海外拠点・豚生体由来は除く

食品メーカーとして取り組むべきこと

グループ各工場での環境対応

2019年稼働の茨城工場（ハム・ベーコンプラント）ではエネルギー効率の高い給湯システムや太陽光発電システムを導入しました。2022年末竣工予定の鹿児島新工場では、ボイラー燃料にLNG（液化天然ガス）を使い、冷蔵・冷凍設備に自然冷媒を採用して脱フロンを実現するほか、太陽光発電を工場建物内の電力使用に取り入れています。今後他工場への展開を図ります。



エコパッケージでCO₂排出量削減へ

製品では、これまで包装資材で使用する色数の削減や非石油由来原料を含むインキを使用する等、印刷工程におけるCO₂排出量削減に取り組んできました。さらに、今春からは「香薫® あらびきボークウインナー」等のパッケージを環境負荷低減型のデザインに切り替えました。この変更により、年間約2,000tのCO₂排出量削減が見込まれます。



前回中間報告書では、株主の皆様からたくさんのコメントをいただきました。その一部をご紹介します。

「報告書が、折りたたみ式で中央の留金が無くなっており分別にとっても便利です。これも含め省資源・環境保護の姿勢が感じられ好感を持ちます」

「SDGsにどれだけ関わっていくのか、その姿勢が知りたい」



株主様とのよりよいコミュニケーションのために。
アンケートへのご協力をお願いいたします

下記URLにアクセスいただき、アクセスコード入力後に表示されるアンケートサイトにてご回答ください。所要時間は5分程度です。

<https://www.e-kabunushi.com>
アクセスコード 2281

●アンケート実施期間は、本書がお手元に到着してから約2ヶ月間です。

ご回答いただいた方の中から抽選で薄謝（QUOカードPay500円）を進呈させていただきます

いいかぶ

検索



本アンケートは、株式会社リンクコーポレートコミュニケーションズの提供する「e-株主リサーチ」サービスにより実施いたします。https://www.link-cc.co.jp
※ご回答内容は統計資料としてのみ使用させていただきます。事前の承諾なしにこれ以外の目的に使用することはありません。

スマートフォンからもアクセスできます

右のQRコードをカメラで読み取れば、スマートフォンからもアクセスできます。
※QRコードは株式会社デンソーウェブの登録商標です。



●アンケートのお問い合わせ MAIL: info@e-kabunushi.com
「e-株主リサーチ事務局」

1 スモールワールズ TOKYO 香薫の日(5月9日)イベント開催 ～ソップリンの香薫補給大作戦～

当社は、世界最大級の屋内型ミニチュア・テーマパーク「スモールワールズ TOKYO」にて、2022年4月29日(金)～2022年8月31日(水)の期間に『香薫の日(5月9日)～ソップリンの香薫補給大作戦～』を実施いたしました。



環境負荷低減型
エコパッケージに
変わりました。

2 「FIELD GOOD(フィールグッド)シリーズ」 の新発売

当社は、植物由来の原料を加工してお肉のような食感とおいしさを実現した植物肉商品「FIELD GOOD(フィールグッド)シリーズ」を2022年8月に新発売いたしました。



チキンナゲット



ポップンチキン



チキンカツ～ガーリック&ハーブ

3 「プリマハムグループ統合報告書2022」を 当社ホームページに掲載!

ステークホルダーの皆様へ「当社グループへの理解を深めていただくこと」、「中長期の戦略と実現プロセスを理解していただくこと」を目的に作成しております。従来の構成に加えて「サステナビリティマネジメント」のセクションを設け、当社グループの重要課題(マテリアリティ)の解決に向けた目標・KPIを公表しております。



※今年度より、環境負荷軽減の観点から冊子の発行を廃止し、WEB版(PDF)のみの掲載しております。



今後の制作に向けて、
ご意見・ご感想をお待ちしております。➡



「TCFD提言への賛同」

当社は、2022年9月5日開催の取締役会において、気候関連財務情報開示タスクフォース(以下、TCFD*)への賛同を表明することを決議いたしました。気候変動問題はグローバルな重要課題のひとつであり、当社グループにおいても事業や戦略に大きな影響を及ぼす重要な課題であると認識しています。今後、TCFDの提言に基づき、気候変動がもたらす「リスク・機会」及び4つの開示奨励項目である「ガバナンス」「戦略」「リスク管理」「指標と目標」に関して検討及び開示を進めてまいります。⇒詳細は統合報告書P31



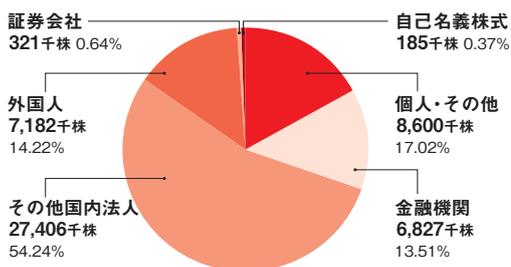
※TCFD (Task Force on Climate-related Financial Disclosures)

株式情報(単体)

(2022年9月30日現在)

- 発行可能株式総数 70,000,000株
- 発行済株式総数 50,524,399株
(自己株式185,960株)
- 株主数 27,370名

●所有者別株式分布状況



●大株主

大株主名	持株数 (千株)	持株比率 (%)
伊藤忠商事株式会社	22,950	45.59
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	3,509	6.97
伊藤忠食品株式会社	2,262	4.50
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	1,047	2.08
BBHFOR UMB BANK, NATIONAL ASSO-PEAR TREE POLARIS VAL SM CAP FD	1,033	2.05
学校法人竹岸学園	910	1.81
株式会社サンシヨク	800	1.59
農林中央金庫	713	1.42
BBH FOR FIDELITY LOW-PRICED STOCK FUND (PRINCIPAL ALL SECTOR SUBPORTFOLIO)	698	1.39
日本生命保険相互会社	446	0.89

(注)持株数千株未満切り捨て、持株比率小数第3位以下四捨五入で表示しております。

会社概要

(2022年9月30日現在)

■役員

代表取締役社長	千葉 尚 登
社長執行役員	
取締役	鈴木 英文
取締役	鯛 健 一
取締役(社外)	山下 丈 丈
取締役(社外)	井出 雄 三
取締役(社外)	辻田 淑 乃
常勤監査役(社外)	佐藤 功 一
常勤監査役(社外)	下澤 秀 樹
監査役	相馬 謙一郎
監査役(社外)	須永 明 美

■会社概要

商 号	プリマハム株式会社 Prima Meat Packers, Ltd.
本 社	〒140-8529 東京都品川区東品川4丁目12番2号 TEL:03-6386-1800
代 表 者	代表取締役社長 社長執行役員 千葉 尚登
業 務 内 容	ハム・ソーセージ、食肉及び加工食品の製造販売
創 設	昭和6(1931)年9月1日
立 立	昭和23(1948)年7月9日
資 本 金	79億8百万円
従 業 員 数	1,997名
支 店 等	東北支店(宮城)・関東支店(東京)・中部支店(愛知)・ 関西支店(大阪)・中四国支店(広島)・九州支店(福岡)
工 場	北海道工場・茨城工場・三重工場・鹿児島工場
物 流 セ ン タ ー	関東物流センター(茨城)・三重物流センター・福岡物流センター
研 究 機 関	基礎研究所(茨城)・生産技術開発部(茨城)
グ ル ー プ 会 社	36社

プリマハム株式会社

<https://www.primaham.co.jp/>